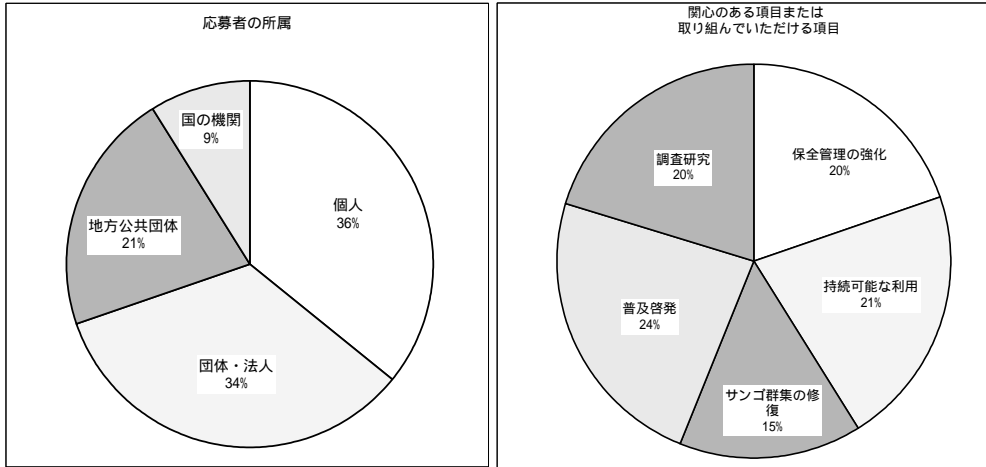


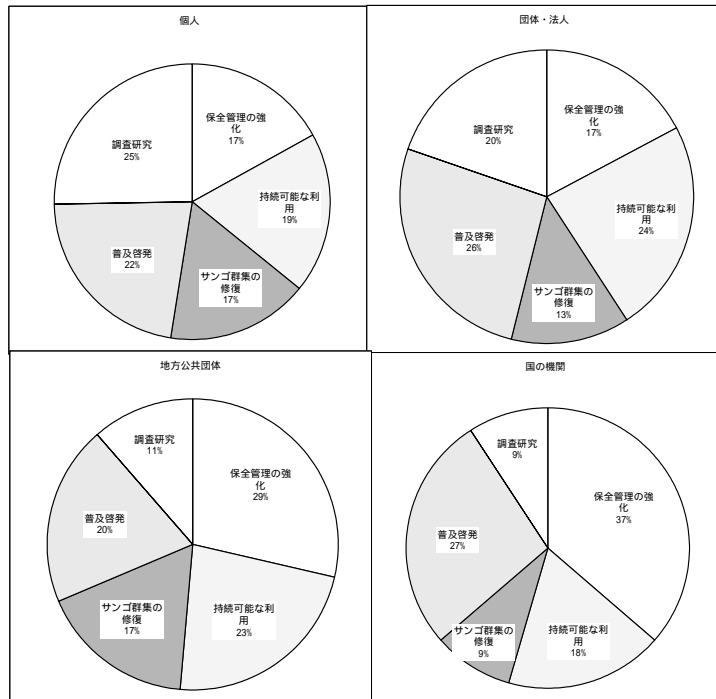
石西礁湖自然再生協議会委員募集時の意見



左のグラフは協議会の応募者の所属と委員募集時の質問項目である石西礁湖の自然再生について「関心がある項目または取り組んでいた項目」の集計結果です。

応募者は個人の方が最も多く、ついで団体・法人となっております。

「関心がある項目または取り組んでいた項目」については、普及啓発がやや多いものの、どの項目もほぼ均等となる結果となりました。



左のグラフは応募者の所属別に「関心がある項目または取り組んでいた項目」を集計してみました。

個人の方は調査研究に、団体・法人は普及啓発に、地方公共団体と国の機関は保全管理の強化に関心が集まりました。

また、次ページ以降、皆様から頂いた「活動しようと考えている具体的な内容または既に活動されている内容」（以下、「活動内容」という）と「石西礁湖の自然再生に対する思い」（以下、「思い」という）を記載させていただきました。

活動内容につきましては、「オニヒトデ駆除」、「赤土流出防止」、「排水抑制」、「普及啓発」、「研究」、「移植」などを行っている、または、行いたいと考えている方が多いようです。

思いにつきましては、「昔に比べて魚やサンゴが減っている」、「赤土・排水を止めたい」、「普及啓発、意識改革を進めたい」、「サンゴだけでなく藻場や水産資源も増やしたい」、「自然との共生を進めたい」、「保全・再生を進めたい」、「身近な自然を守り継いで行きたい」、「サンゴ礁保全の手本となるようにしたい」という思いが多いようです。

氏名・団体名	活動内容	思い
マリノサポートグループ	八重山ダイビング協会・環境対策委員としてオニヒトデの駆除活動をはじめ赤土調査などの保全活動に取り組んでおります。	礁湖内にはたくさんのダイビングポイントがありますが、年々サンゴが減少し透明度も悪くなってきています。原因は陸からの影響が大だと思しますので、石西礁湖だけにとらわれず、名蔵湾や米原地区などの陸と海との繋がりを明確にし八重山全体を国立公園に指定し無秩序な開発は避けたいものです。
美ら島流域経営・赤土流出抑制システム研究会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当研究会では、「流域経営」という視点から、石西礁湖にかかわる流域からの赤土流出抑制システムについて以下の研究を実施してきている。</li> <li>・平成14年度より名蔵川流域をフィールドとして、石垣島周辺海域への赤土流出観測及び赤土流出抑制効果の分析を実施。（研究代表者：東京工業大学池田駿介教授）</li> <li>・平成16年度に上記の成果を取りまとめ、石垣島にてサンゴ礁保全と赤土流出抑制対策に関する国際シンポジウムを開催。</li> <li>・平成16年度より土木学会の地球環境委員会で、「都市域と森林域の連携に基づく流域資源循環に関する研究 流域経営の視点から」のワークショップを継続的に実施。（座長：江戸川大学恵小百合教授）</li> <li>・平成17年度に、国土交通省の建設技術研究開発費補助事業の採択を受け、「沖縄における流域経営と赤土流出抑制システムの促進方策に関する研究」（研究代表者：芝浦工業大学松下潤教授）を進めている。</li> <li>・ハード班では、陸域のサトウキビの耕作方法と赤土流出量との相関分析、陸域から河川、河川から海域への赤土流出の定量的解析、アンパル干潟及び名蔵湾における赤土の挙動解析、赤土の濃度とサンゴの生態系の健全性との相関分析等を行っている。</li> <li>・ソフト班では、海域に影響を及ぼさない赤土流出抑制型のサトウキビ耕作方法の研究開発、環境配慮型かつ自立可能な農法の研究開発、左記の農法への転換を促進するためのしくみの研究開発、農業者をはじめとする及び流域住民の意識改革に関する研究、さらには、石西礁湖を代表とする八重山諸島のサンゴ礁の保全に関する国民的関心を高めるための方策（例えば、基金制度やグリーンツーリズムとの連携、世界自然遺産登録との連携など）に関する研究を行っている。</li> <li>・ワークショップの開催：沖縄および国内の大学の研究者、行政関係者、農業関係者などから構成されるワークショップを組織し、平成18年度を目途に成果を取りまとめる予定。</li> <li>・その他、沖縄県農林水産部による『石垣島赤土流出抑制対策マスタープラン調査』への情報提供などの協力。</li> </ul> <p>参考1：（研究会から代表として参加する理由等として）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然再生法の制定時に、衆議院環境委員会にて、参考人陳述を行った。（特定非営利活動法人荒川流域ネットワーク代表理事恵小百合他5人が、この法律の適用に関するNPOの受け止め方、対応等に関する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流域経営という視点で、「農業+漁業+観光」という産業クラスターを形成し赤土流出抑制をサポートする社会システムを作り、結果として、石西礁湖のサンゴ礁保全に寄与する方策を検討したい。</li> <li>・自然は、「誰かが守る、まもりたい...」から、「まもるのは、わたしたち！」という『エコ・プライド』=「エコロジカル・プライド：環境を支え生態系の保全をするという誇り」+「エコノミカル・プライド：経済的に少々高くても資源（人・もの・金・情報）循環が軌道に乗るまで支える誇り」の醸成を目指したい。</li> <li>・現代世代の人間の都合で、次世代の生存権、とりわけ自然界の生存権を奪わない、復権するために必要な見直しを石西礁湖で実証できれば、南西諸島の自然環境回復においても汎用でき世界自然遺産登録へ大きな前進につながる。</li> <li>・「石垣島全島と石西礁湖を対象とした流域経営マスタープラン（仮称）」の必要性を研究会では議論している。</li> <li>・環境配慮型の農業を陸域で行っている農地や農家には、サンゴ礁やサンゴ、ジュゴン、ヤンバルクイナ等をシンボルとするマークをつけた看板を立てる、あるいは出荷する作物や商品にそのマークを使用することを許可するなど、『いきものを助け、生き物に生かされる美ら島流域経営・赤土流出抑制ブランド』を石西礁湖のサポート人間に使用してもらうことなどにより、普及啓発と基金などによる資金循環システムができるとよいと思う。</li> <li>・サンゴ礁とともに、藻場に生きる大型哺乳類で絶滅危惧種ジュゴンも保護できるよう藻場の保全も世界自然遺産登録のためには大きな課題である。（当研究会メンバー江戸川大学環境デザイン学科吉田正人教授・IUCN（国際自然保護連合）世界自然遺産登録担当理事）</li> </ul>

意見を求められ、質疑応答した。2002年2月)

- ・荒川太郎右衛門地区自然再生協議会の専門委員(学識委員:恵小百合 平成14年自然再生協議会設立準備委員以来、現在に至る。)
- ・環境庁委託研究「ナショナルトラスト(国民環境基金活動)のあり方に関する調査研究」林修三座長の研究幹事(財)政策科学研究所(昭和56~平成2年)(恵)
- ・(社)日本ナショナルトラスト協会(平成4年設立)事務局長(平成5~10年)を経て評議員として自然環境保全にかかわっている(恵)。
- ・(財)自然公園財団評議員(恵)

参考2:(環境省が国立公園、自然再生法以外の地域や主体との連携を図る際の参考として)

- ・林業政策審議会委員(恵)として流域の森林資源を都市域で活用循環するしくみ、木遣い文化の復活を提唱。
- ・農林水産省「農村の地域資源に関する研究会」委員(恵)としてアグリトーン(エコトーン:水域から陸域への生物相分布が変化する様子になぞらえ、都市域から近郊農業地域、高生産性農業地域、過疎化したり粗放化された農地や里山農山村などまでの変化をさす。都市域の人々が「農)にかかわる程度や質、専門性についてグラデーションがあり、農業や林業側の需要と都市民側のかかわり方への希望のマッチングをする機能の必要性がある)を提唱。
- ・現在は、アグリ・フォレスト・トーンを提唱している。(農林山村地域を流域の市民が支える、つまり、流域経営のボランタリーセクターとの連携、流域の資源を活かす流域経済循環を構築し継続させる方を研究中。)
- ・美ら島流域経営・赤土流出抑制研究ソフト班では、『アグリ・フォレスト・アクア・トーン』として1)島内の流域で上流から海までの人・もの・金・情報の循環のしくみをつくるきっかけ・しくみ(マッチング:都市と農、新旧住民、知恵の循環、伝承、連携)と2)島内と島外の人々との連携のしくみについて提唱し、研究中である。
- ・国土審議会水資源部会委員(恵)として国土保全による健全な水循環をふまえた水需給対策が不可欠であることを実感し、また、荒川利根川水系、木曾川水系、筑後川水系のフルプラン策定への参加経験から、水事情が地域によりまったく異なること、気候変動に伴う自然条件の変化への対応としての持続的な政策が求められていることを勉強している。

(株)沖縄総研	<p>沿岸海域に流入する環境負荷物質の排除・抑制  「重要港湾」区域内の船舶管理のあり方（アンカリングによるパッチリーフ等の破壊対策）  海域使用者（漁業従事者、海運業者等）の意識改善  環境カウンセラーとして小学校での地球温暖化対策教育</p>	<p>海域生物のライフサイクルの基盤である珊瑚・海藻等の底生成物の保全は、第一に考えなければならない。そのため、海域の使用者（漁師、海運業者、ダイビング業者等）や利用者（一般住民、観光者等）及び水面管理者（行政、許認可権者）が一体となった海域の自然保全・再生の取組みが必要と考える。</p> <p>弊社は、八重山周辺海域において、10件余の環境調査と漁業補償業務を通じ、海域観察や漁師聴取調査を行ってきた。補償は、海域の経済価値を漁業生産量を元に計量しようとするが、自然界は定量化できない価値のほうが多く存在する。この定性的価値をいかに具体的に伝えるかという環境教育も自然環境保全・再生に向けた大きな取組みとなろう。</p> <p>また、調査を通じ、漁業施設設置（漁港や養殖施設等）や漁業操業の形態において、海面使用者の環境保全意識にも多少のギャップを感じた。そこから思われることは、保全・再生に向けて、積み重ねれば山となってしまう「小さなチリ」（＝環境負荷物となるものを捨てたり、見逃してしまう「このぐらいは、何でもない」という意識）をなくし、海を守るべき者が率先して保全・再生に取り組む土壌を早く形成しなくてはならないという事である。</p> <p>他方、海面使用者からは、公共工事施工者が施工に伴う環境負荷と環境保全の整合を図ろうとすることについて、十分ではないという指摘も多く聞かれ、特にシルト影響による環境影響が問題となり、合意形成の障害要因ともなっている。海面の使用者や利用者に対する、環境保全に向けた最新技術の情報提供やより具体の意見交換が求められよう。</p> <p>弊社は、八重山周辺海域において環境調査や漁師の聴取に携わってきたが、観察による環境変移について、また、漁師が危惧する環境破壊（大型船舶のアンカリングによる珊瑚破壊）、あるいは海上工事と環境保全の整合のあり方等、調査で得た知見はもちろんのこと、海を愛するものとしての思いをこの協議会の場で生かせたらと考えている。</p>
林野庁 九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター	<p>西表島の海岸国有林において、外来種であるギンネムが侵入しており、本来在来種で構成された場合の海岸林の持っている防風、防潮等の役割を十分果たしていないことから、近隣の海岸自然植生林を参照に在来種の植林を行うこととしている。</p> <p>なお、今年度は現地調査を行い、ギンネムの駆除方法、海岸林の再生方法等の検討を行うとともに、在来種の育苗を行うこととしている。</p> <p>上記のような取組を行うことにより、海岸林に隣接している農地等からの土砂流出を防ぐことも期待される。</p>	<p>石西礁湖のすばらしいサンゴ礁を次世代へ引き継ぐために、陸域の海岸国有林で対応できることを積極的に行いたいと考えております。（西表島の森林で自然再生を行う必要がある箇所は、海岸林であることから当方と致しましても海岸林の再生に対する取組を行っていくことにしております。）</p>
沖縄県八重山支庁 農業水産整備課	<p>農地からの公共水域への赤土等流出防止対策（土木の対策）の実施（水質保全対策事業）  サンゴの移植の実施（漁場環境保全創造事業）</p>	<p>石西礁湖については、貴重な環境資源であると認識しているが、現状として人間の生活及び生産活動空間でもあるため、保護のみではなく共生する立場で自然再生に協力したい。</p>
特定非営利活動法人 たきどうん	<p>観光を主産業とする竹富島では、豊かな自然環境や人々の営みと観光を両立させていくことが急務であると考え、観光システムの改革を目指し、竹富島型エコツアー等の普及を行っています。また海岸に打ち上げられる大量のゴミも目立つので、定期的な清掃を行う予定です。</p>	<p>当団体にはサンゴ礁の専門家はおりませんが、私たちの目指す文化遺産の継承や普及、観光のあり方は石西礁湖の自然再生に少なからずいい影響を与えられると思います。ライフスタイルの見直しや清掃など、できることから一歩ずつ取り組む予定です。</p>

海上保安庁 第十一管区海上保安 本部 石垣海上保安部	当部では石西礁湖に特化することなく、八重山の海洋環境の保全推進について、指導・啓蒙を実施しているところです。	「石西礁湖自然再生協議会（仮称）」の設置により、同協議会に参加する関係行政機関及び関係団体が持つ知識及びサンゴ礁保全のノウハウが一元的に活用されることによって、石西礁湖の保全が図られ、ひいては八重山全体の海洋環境保全が推進されることを希望します。
土屋 誠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンゴ礁の重要性に関する学問的裏付けに関する研究・サンゴ礁の環境収容力の把握とその利用に関する生態学的研究</li> <li>・サンゴ礁群集の動態に関する生態学的研究</li> <li>・陸上からの流入物がサンゴ礁生態系に与える影響に関する研究</li> <li>・マングローブ生態系とサンゴ礁生態系の関係に関する研究</li> <li>・サンゴ礁生態系に関する講演や自然観察会</li> </ul>	攪乱を受けた自然を修復するのは人間の責任である。石西礁湖をサンゴ礁保全あるいは再生のモデルとしてとらえ、全員でその責任を全うしたい。さらに、他のサンゴ礁でも応用可能な方策を見だし、広く世界のサンゴ礁の回復に貢献したい。
鹿熊 信一郎	沿岸水産資源管理	サンゴに限らず他の水産資源も増やして石西礁湖の自然再生を進めていきたい
波照間 博	崎枝の海岸近くに星砂の幼虫がいるらしいので星砂まで育てたい	オニヒトデの影響を少なくしたい カルキを使った漁はやめさせたい
ジ・フリダ 化`ンガ`サ`ビ`ス	活動は現在、伊原間周辺の海域ですが同様の危機に面しています。協力体制をしきつつ知恵を出しあい、石垣島周辺全域のサンゴ礁保全の一環として活動していきたいと考えております。	西表島、石垣島と両島を15年見てきました。破壊、再生は繰り返されていますが、心なしかその再生力が弱まっている気がします。異常気象、人為的問題他複数の原因がからんでいるのでしょうか？
平敷 兼夫		小型船をもってるので、ヒトデ・サンゴ群集の修復に協力したい。
前川 聡	サンゴ礁を劣化させている要因、回復を阻害している要因の調査、把握と、再生、復元に関する手法の検討について	先頃、釧路湿原の自然再生事業に関して、公共事業の看板の掛け替え、協議会は形式会議ではないかとの批判が出ていますが、石西礁湖ではこのようなことのないようにしたいと思いますし、意義のあるものになることを期待しています。
山田 光映	オニヒトデ駆除活動に参加。海がめ調査に参加。	オニヒトデ駆除のように、半日活動しただけでもあれだけの数が取れるのだから、放っておいたらどれだけ増えたかと思うとぞっとします。ただ、オニヒトデもヒトも自然の一部なんだという考え方は否定できないことでもあると思います。さんご礁のすばらしい地域で自然を相手に働かせていただいているので、少しでもご協力できたらと思いますので、よろしくをお願いします。
(財)世界自然保護基金`ャ`ル`ン`WWF`サンゴ`礁`保護`研究`センター	<p>当初は、島外の人間の視点からサンゴ礁環境の素晴らしさ（学術的な価値、観光資源としての価値）を訴えるための活動（シュノーケリング観察）が中心であった。その後、徐々に、長い歴史の中で連綿と続いてきた海と密接に関わる生活文化を掘り起こし、身近な海の価値（地元の人々の感覚に沿った海の価値）をクローズアップすることで、地元住民の海に対する愛着や誇りを醸成し、サンゴ礁保全に対する自主的な活動を促すような働きかけを行ってきた。</p> <p>シュノーケル観察会 白保今昔展 海に関わる伝統文化の掘り起こし、記録、展示、体験事業の実施 郷土料理研究会 身近な自然の食材への注目と、食材の生育環境の保全への関心の喚起 白保日曜市 身近な自然の素材を使った特産品の発掘及び販促による地域産業づくり 白保魚湧く海保全協議会の設立・運営支援 地域の自主ルールづく</p>	<p>WWF しらほサンゴ村の存在理由、目的が白保サンゴ礁海域の環境保全と持続的な資源管理の仕組みづくりであり、“石西礁湖の自然再生”とある意味共通の目標のもとにプロジェクトが設計されていますので、当センターのプロジェクトに沿って情報交換・連携を図ることができればよいと思います。</p> <p>白保での取り組みをモデルとして、南西諸島の環境保全に役立てたいと考えていますので、石西礁湖自然再生協議会の場で色々な方々と情報交流できればと考えています。</p> <p>中長期的な目標として、かつての豊かな海を再生したいという地元の意向があり、漁業資源の再生へ将来的に取り組みたいと考えていますので、連携を図れればとも考えています。</p>

	<p>りと主体的な活動の実施 講演会の開催 調査成果や研究者による報告など、地域住民の主体的な環境保全・資源利用の適正化に参考となる情報の提供</p>	
名倉 哲也	<p>3年前から沖縄総合事務局開建部の協力をえて、石垣港、平良港、那覇港の海域をお借り致しまして、色々な材料で一番サンゴ着生に適した素材を水深約3~5m付近に設置し、実験を行っております。06年1月20日調査致しました所、キクメ石料の着生が確認できました。今回の調査は、06年3月までのよていです。</p>	<p>私ども極東建設といたしましては、沖縄復帰以来石垣、宮古、ナハと海上土木に従事させていただいておりますが、ここ数年の海の汚れを痛切に感じております。防波堤工事等(国)の場合は、基礎捨石等は石に土が混ざらない様に石は山で洗浄し、現場では汚濁防止枠を使用し、外側に汚濁防止膜で工事区域を囲んで慎重に作業していますが、大雨の時新川の川から竹富の西、沖の防波堤の付近まで赤土が流出していますので川口付近に沈澱池の様な物を設置をして、赤土の流出を止める必要が有ます。</p>
山本 圭三	<p>川平保護水面が貝類エビ類などの採取を禁止し、浜下りの日には監視員を配置し保護している例にとって、保護水面の箇所をふやし、数が激減している種の貝類・魚類は採取を年間をとおして禁止し、その他減っている種は、産卵時期を入れた一定期間内の採取を禁止する。 海から食料を採取して食べる事は、八重山の生活文化であり、これを全面禁止するのではなく、今減っている現状を把握して 「昔あったみたいに、たくさん増やしてから取るうね。それまで海に預けて、大きく育ててもらおう。将来、その財産を受け取りに行こう。」 そんなキャッチフレーズで、浜には立て看板、採取禁止時期には、新聞・広告で通達する。 そして八重山の海開き日には、石西礁湖自然再生への取り組みを、八重山・日本全国にむけて紹介する。 「1972年当時の海に戻そう」宣言を、できれば石垣市長みずから言ってもらいたいです。 海は上から眺めているだけでは分からない。その現状を実感できない。自然が元気だった頃と病んでいる現状を、写真・映像など見て実感できる資料を作成して、テレビ・新聞記事・広告で伝えてはどうでしょうか。</p>	<p>私の出身は京都で、海には年1回、日本海へ泳ぎに行くだけでした。八重山に来たのが14年前。こちらの海で初めて泳いだ日、「こんな世界があったのか」と驚き、その青い世界に出会えた喜びで胸一杯、感謝、感激しました。 あちこちの離島をめぐり、キャンプ生活して、海で遊ぶ日々を過ごしました。 そのうち、貝や魚を採って食べる事を覚え、電灯潜りも始め、どこに貝がいてあの魚を採るにはどうするか、そんな事に夢中になってました。 その後、川平のダイビングショップに勤め、ダイビングで海中を見る楽しみを体験。それから川平の水産試験場にて研究員の補助。ヤコウ貝、シヨコ貝の養殖試験に携わり、産卵から小さく成長するまで育てる体験から、やがて海で貝を採らなくなりました。 5年ほど前からは、サンゴ礁内の魚の激減を感じ、魚・貝の減った原因は自分自身にもあると反省し、今はもっぱらサンゴと魚を見て楽しんでいきます。 サンゴの白化、台風後のサンゴの倒壊。意外だったその後のサンゴの復活の速さ。 人為的な原因を減らせば、海の自然の回復は早いのではないのでしょうか。 海で遊び、海を観光資源として活用しながら、市民・行政・企業それぞれが意識変革し保全する。各個人の責任ある行動、それが自然再生へのカギだと思います。 この八重山の海のすばらしさを多くの人に知ってもらいたい。自分の体験から得た、でっかい感動と反省。まずはそれを私の出会った人たちに伝える、話す、海に連れていく。 そこから始めています。</p>
(株)シー・テニコ (リゾート・アライント・カマ)	<p>普及啓発：西表国立公園・自然体験学習とのタイトルで、中学生、高校生の修学旅行を受け入れております。過去19年間で伸べ、10,000名。昨年度実績で、25校、3,000名を受け入れしました。主に嘉弥真島をベースにして、小浜島、竹富島、石垣港近海にて催行しております。この間、独自に教材を作成して行っていますが、より良い啓発教材を求めています。</p>	<p>保安全管理：上記以外に一般の観光客向け海遊び(シュノーケル、体験ダイビング)を催行しております。一業者として、次の2点で非常に危惧しております。 業者の増加に伴い、観光客船舶のアンカーでのサンゴを傷める。 観光客増加に伴い、サンゴを傷める。 これらの問題を早急に対策する必要がある。</p>

岡本 峰雄	有性生殖を利用したサンゴ礁再生技術の研究開発 セラミック製サンゴ幼生着床具、自然のリーフ（岩盤）、人工基質等を組み合わせ、サンゴの再生産力を保持してゆきたい。また着床具やサンゴの個体追跡により、サンゴの生残・成長過程の研究を行い、サンゴ礁再生をより効果的に行うための技術開発に寄与したい。	日本最大のサンゴ礁「石西礁湖」のサンゴの保全が可能であれば、日本のサンゴの組織を防ぐためのさまざまな研究開発を展開することができます。 現在でも自己再生産力を有した海域であり、多くの関係者の協力により、保全から再生まで現実のものとしてゆきたい。
野島 哲	サンゴ群集の修復のための基礎調査・研究	石西礁湖を含む八重山群島は日本のサンゴ礁にとっては、最後に残された海域であり、是非とも保全。修復に協力したい。
(株)沖縄環境保全研究所	当研究所は現在まで、海域の赤土やサンゴ礁の現状について、国や県からの委託事業を通じて、沖縄県のサンゴ礁の推移を見続けております。また、(社)自然環境共生技術協会に所属し、多様な自然環境の保全・再生や、総合的な自然環境共生技術の集積・向上・確立を図り、自然環境共生型社会の形成に貢献しております。今後は、サンゴ群集に関する DNA 等の集団遺伝に関するデータを蓄積し、サンゴ群集の遺伝的構成や多様性について調査研究を行うことを考えております。	当研究所は、本県初の環境問題の総合コンサルタントとして活動しております。これまで、公共機関及び各種団体・民間事業場の委託を受けて、海域の環境問題に対しての仕事にも取り組んで参りました。その蓄積した経験と技術力を通して、微力ながら未来に残すべきサンゴ礁を保全するお手伝いを出来ればと考えております。
石嶺 一		石西礁湖 八重山地域の海の環境 琉球諸島全体の海の環境 東南アジアの海の環境 地球全体という発想の拡がりを、石西礁湖の自然再生事業が八重山地域の住民へ意識させるいいきっかけになればいいなあと考えます。
佐伯 信雄	・ 保全管理の強化 大和ハウス米原リゾート計画の反対活動 景観条例市民会議参加による自然保護の導入 ・ 調査研究 森とサンゴ礁の繋がりが、豊かなサンゴ礁の生育する源では。	山のある島、赤土を出す島も含めないと再生への道はおぼつかない。山のある島河口域がもっともサンゴ再生に優れ、しかしその河口から赤土汚染が起きている現実がある。自然再生の最大の効果は赤土汚染防止であることは明らかである。その防止努力を優先せずにサンゴ移植はおかしい。
竹富町 企画課	保全管理の強化について 石西礁湖のサンゴ礁は、我が国を代表するサンゴ礁生態系であり、国際的にもグレートバリアリーフに匹敵する重要なサンゴ礁生態系である。同サンゴ礁を保全管理することは、貴重な財産を将来に残していくことであり、一方では持続可能な利用によって地域の活性化に繋がる重要な特性を有している。保全管理を徹底し、監視指導體制の強化に取り組んでいく必要があると思慮する。	グレートバリアリーフに匹敵すると言われるほど、多様なサンゴ礁生態系を持つ石西礁湖。 サンゴ礁は海洋のなかでも特に生物の多様性が豊かな自然環境であると考察します。しかしながら近年、赤土流出や高水温による白化現象、オニヒトデの食害などサンゴ礁生態系は広範囲に影響を受け、衰退しているとの調査結果が出ています。誰もがその恵みを楽しむ海。様々な恩恵を人々に与えてくれる豊かなサンゴ礁を守り育てる必要があると思慮します。
ハミングバード	・ 観光客に対する地球環境の変化とサンゴの状態の関係を潜水、又は遊泳により紹介。 ・ 潜水中発見したオニヒトデの駆除。 ・ 修学旅行生に対してのサンゴの紹介（下請）	本土出身者ですが、初めての渡沖縄は約 20 年前。その時分からサンゴの荒廃は筆舌にはつくし難い。本当に何とかしたい。
(有)海游	石西礁湖内においてサンゴ礁にかかわる調査・研究等を 13 年前から現在に至るまで実施している。さらに研鑽していき、過去の実績と経験を生かして石西礁湖の保全活動に微力ながらも貢献していきたい。どの項目もいろいろな案があるが、特にサンゴ礁における環境教育について力を入れていきたい。	生活の場でもある石西礁湖の保全に関する意気込みについて強いものがある。石西礁湖を利用する人々もサンゴ礁と同様に世界に誇れるものでなければならない。
中谷 誠治	サンゴ礁利用者、その他のステークホルダーに関する社会科学的調査	野放しではなく適正な利用がされているサンゴ礁を実現させたい。

大野 寿一	ダイビングライセンスを取得していますのでオニヒトデ収穫や調査研究・普及啓発活動に取り組んでご協力したいと思います。現にサンゴ倶楽部と称して小浜島での会員募集を行い、宿泊させているが、趣旨としては、この地域をよく知って頂く事としています。	25年前のスポーツクラブ・水泳コーチ時代に会員とダイビング・シュノーケルツアーで八重山の海に接して気に入って、11年前には小浜島のリゾート施設・コーラルアイランドリゾートの経営に参画しましたが、バブル崩壊により閉鎖となり一時帰阪しておりました。ユニマットの開発計画を知りユニマットに入社しましたが、小浜島の前ホテルの良さが忘れられず、現在再開発PJに参画しています。私の水泳の教え子には五輪選手5名部下には五輪コーチ1名がいます。全国のスイミングクラブ・スポーツクラブ会員に普及啓発活動を行いと思います。宜しくお願いいたします。
石垣市農林水産部 水産課	・石垣市では、石西礁湖内において漁場環境保全創造事業を導入してサンゴが枯渇した場所にサンゴ移植を実施している。(平成6年度～平成17年度)	・漁獲量が年々減少してきた今日において、石西礁湖の存在が今後の資源管理に果たす役割は重要だと考えています。石西礁湖の自然再生に向けてあらゆる方向への啓蒙が必要だと考えられますので自然再生協議会の発足に期待しています。
沖縄県土木建築部 港湾課	石西礁湖内の県管理港湾である竹富東港、小浜港、黒島港及び上地港の港湾区域を中心に保全管理の強化、持続可能な利用、普及啓発等の活動。	石西礁湖の自然再生は港湾にとっても重要な課題であるとともに、サンゴ礁の回復について港湾区域の環境を独立させて考えることは出来ず、石西礁湖全体の海域の連続性を考慮しながら活動を行いたい。
木村 匡	現在、調査に携わっていますが、石西礁湖の保全のためにどのような科学的知見が必要か、また得られた科学的知見から何を導くのか、という点について貢献できればと考えています。 また、保全のために、1住民として何が出来るかについて、地元の皆さんと一緒に考え、私自身の地元である長野県での自分のあり方の参考にさせていただきたいと思っています。(ちなみに長野県では、地元の誇りであるはずの千曲川が、治水や洪水対策の名目で、いたるところで大規模に改変され、心を痛めています)	長年、石西礁湖で調査を行ってきたので、そのフィールドを守ってきたいとの思いがありますが、私にとってサンゴ礁が特別だから守る、との意識はそれほど強くなく、八重山で生活する人々にとっては身近で普通の自然であり、その身近で普通の自然をいかに守っていくか、が重要なことだと思います。それを学ぶことによって、自分の地元の身近で普通の自然を守る動きにつなげたい。
比嘉 榮三郎	・サンゴ礁海域における赤土等堆積状況 ・サンゴへの赤土等・栄養塩の影響 ・赤土等の流出防止対策等	・県民の安らぎと憩いの場として ・観光産業の目玉として ・世界有数の自然遺産として・・・などなど 地域住民主体型のサンゴ礁海域の保全・再生への取り組みが必要かと思えます。
吉見 武浩	国際的にも重要な石西礁湖のサンゴ礁の生態系を子供達に残していくために少しでも力になりたいと思います。	子供の頃には、身近な歩いている場所に白い砂浜やサンゴがあり、色とりどりの熱帯魚がいて、いつもそこは遊び場でした。島の自然が少しずつ失われると同時に島人のおおらかな心も失われていつ様に思えます。大切な自然を守り継いでゆきたいのです。
沖縄県八重山支庁 総務・観光振興課	八重山支庁庁舎内へのポスターの掲示及びパンフレットの配布。関係機関への周知等。	地域の重要な漁業及び観光資源である石西礁湖を保全していく必要がある。
黒川 洋一	・大浜の海を守る会は15年前から公民館活動の一つとして海の日には海辺の清掃を部落民に呼びかけて行っている(海上保安庁協力)。 ・豊年祭には海をアピールして団体で参加している。 ・集中排水処理施設ができるので完成前後、昔(20年前)とくらべての海辺の小動物の調査。アーサー、小動物採取規制作り。 ・大浜小学校、大浜中学校、部落民への啓発(大浜は八重山で1番大きい農村部落である)。	・守る会が本会の主旨に合っているかわからないが、情報収集として参加。 ・地元民は自然保護に対して無関心すぎる。 ・この種の自然関係の会とはかく本土人のみが目立ち、地元民が参加しにくい雰囲気がある(ナイチャーほど言語能力が優れていない)。 ・八重山の自然は本土人のためにのみあるのではない。 ・参加者は住民登録している者に限定すべきである。



(社)石垣市観光協会	当会も関わっております「美ら海・美ら山募金推進協議会」等を通し、市民や観光客へ、石西礁湖のみならず、八重山の自然についての啓蒙活動を行っていただきたいと思います。	日本最大、北半球でも最大規模といわれている石西礁湖を、そしてその中に生きる数百種類にのぼるといわれる海の生き物がバランス良く命をはぐくむことができるよう、出来るだけ本来の姿へ戻し、いつの世までも「美しい青い地球」であるように、守りかつ共生していけたらと思います。
勝見 輝夫	サンゴ礁保全協議会の活動を通じ、定点でのサンゴの変化を目の当たりにしてきたが、その変化に係る要因等を総合的に学んでみたい。	日常、身をもって接している北部海域とは異なる自然環境であろう石西礁湖を知ることにより、他の海域のサンゴ礁保全への要件が明らかになるのではないかと期待している。
太田 格	水産資源の持続的利用に関する研究 サンゴ礁性魚類の資源、生態、漁業に関する調査研究を実施中 1) 潜水観察による重要魚類の分布特性、資源量、加入量調査 2) 市場調査、漁獲統計解析による漁獲量、資源量水準の監視	八重山、沖縄において自然、とりわけ海と人の共生は重要な課題と認識しております。 調査研究、現状の把握、普及啓発を通して、海の利用について広く県民の意見を求める必要があると考えています。
沖縄環境調査(株)	現在のところ具体的な考えはありませんが、石西礁湖の再生マスタープランを精読し、協議会での議論を踏まえて、自分に何ができるのかを検討してみたいと思います。	日本国内におけるサンゴ礁域の多くは、沿岸域の開発、オニヒトデ等の食害生物の発生、白化現象などの影響により、危機的な状態にあります。このような事態の中、日本最大のサンゴ礁である石西礁湖を再生し、保全していくことは、サンゴ類の資源保護上大変貴重なことだと思います。また、この再生の試みが成果を上げれば、サンゴ礁が存在する他地域への波及も期待でき、大変意義のある事業だと思います。この事業を成功へ導くために、微力ではありますが貢献をしたいと思っています。
コーラル・ネットワーク	世界的なサンゴ礁のモニタリング活動「リーフチェック」を推進しています。具体的には、リーフチェック調査法の普及、リーフチェック調査の継続実施および拡大、セミナー等による市民への啓発、などを行っています。	主にモニタリングに関して、ご協力できればと思います。遠方のメンバーが多いため、会議にはなかなか参加できないと思いますが、宜しくお願ひします。
鷺尾 雅久	農地からの赤土流出や畜舎排水、生活排水などの現状を把握し、改善の方策を探りたいと思います。	新空港の建設や大型リゾートの計画といった大規模開発の他、無秩序な宅地造成や耕作放棄地の増加など、石垣島の自然は危機に瀕していると思います。その方向を変え、自然と折り合いを付けた生活を実現し、自然の回復を図るための第一歩に、石西礁湖自然再生事業がなればいいと思っています。
石垣市企画開発部 環境政策課	自然保護の業務を行っており、また石垣島周辺海域環境保全対策協議会活動を通して赤土流出防止について啓蒙活動を行っている。	石西礁湖に限らず、石垣島周辺にもサンゴ群落が広がっており、環境の保全や自然再生により、かつての美しい景観を取り戻すことが必要だと思います。
海洋開発(資) 八重山事業所	オニヒトデの駆除、サンゴの植え付け作業	このすばらしい石西礁湖の再生に少しでも役立ちたく応募致しました。
アウトドアショップ・ネオ 沖縄県シーガックラブ	シーカヤックを通して自然保護の啓発運動を展開したいと存じます。 シーカヤックを通して自然保護の啓発運動をしたいと存じます。	沖縄の豊かな自然の恵みをこれ以上破壊してはいけない。
新城 安哲	サンゴ礁海域で発生する人的事故(特に生物による刺傷、咬傷等)の予防及び危険生物とのつき合い方の普及。サンゴにダメージを与える赤土流出の問題(現在、波照間島では農地からの土壌流出が貯水池により、ほとんど抑えられている)。	住宅地の近くに大きく広がる石西礁湖は地域の宝であり、漁業・観光業等が将来にわたって守っていく価値がある。大切にしていきたいものである。

沖縄総合事務局 石垣港湾事務所	八重山圏域の生活や経済社会を支えるための海上交通・輸送について、それらの機能を安全かつ安定的に確保することを目的に、防波堤や岸壁などの港湾施設を整備している。その整備の中でサンゴ生息の見られる所があり、サンゴを生かす方策として、移植実験を行った。石西礁湖の東端に位置する石垣港では、海域環境やサンゴ礁の保全が大きな課題のひとつであり、今後の港湾整備にあたっては環境に配慮するとともに、サンゴが生息する箇所での整備においては、これまでの移植実験の成果や新たな知見を活用するほか、港湾内の環境保全に資することができるよう可能な範囲で自然の再生・創造を検討していく考えである。	
石垣 喜晴	海岸などの清掃、下水道や生活排水への配慮など。 また、多くの人に環境保全に対する啓蒙活動などを行いたい。	自分自身が生まれ育って島の環境が、この島を離れてつくづくいい環境なんだと気づき、この自然という財産を未来永劫残して行きたいと思いを活動を行いたいです。
沖縄県農林水産部 漁港漁場課	・平成17年度まで石垣市が行っているサンゴ移植事業を補助してきました。移植サンゴの活着率等、結果は芳しくなく、18年度より休止となります。 ・漁港の整備においては近年、環境に配慮した構造、工法の検討が求められており、沖縄本島の一部漁港で消波ブロックにサンゴを移植する取組を試みています。(マスタ・プランP47)	・石西礁湖は”再生”というほど生態系が損なわれている状況ではないと思います。 ・しかしながら本協議会では陸域からの環境負荷低減や、漁業、観光利用のあり方なども論じられるかと思しますので、本協議会の活動成果が本県をはじめ、広く活用されることを期待しております。
竹富町 建設課	各島々への海路浚渫整備	石西礁湖内のオニヒトデの駆除と赤土流出防止等の対策を徹底して行けたら・・・
野口 定松	サンゴの保全・保護。	近年、陸部からの汚れが目立つようになってきた。
(株)テトラ(沖縄営業所)	サンゴの移植技術、増殖技術の開発研究	貴重な資産としての増養殖と有効活用を図りたい。
沖縄総合事務局 開発建設部 港湾計画課	石西礁湖自然再生マスタープランの第2章持続可能な利用の第3節サンゴ礁と共生する港湾整備への取り組みについて投稿寄与している。	
竹富町 商工観光課	石西礁湖自然再生推進調査専門委員会への参加	
小笠原 敬	・オニヒトデ大量発生予知のための稚オニヒトデモニタリング。 ・サンゴ礁生物調査研究	沖縄本島周辺など高緯度域へのサンゴ幼生の供給源として期待される石西礁湖のサンゴ群集が永続的に保全、再生するための本協議会に微力ながら協力させていただきたいと思っております。
長田 智史	現在、仕事のうえで進めているサンゴ礁保全に関係している活動力を仕事を通してより一般的な分野において紹介していくとともに、これまで私的にも研究してきた生態学を続けていきたい。	石西礁湖の自然再生がより広く沖縄県のサンゴ礁、また、自然の手本になるような事業となるように、できるだけ参加する事で、沖縄県の自然保護に加わってきたい。
(独)水産総合研究センター 西海区水産研究所 石垣支所	・石西礁湖を含めサンゴ礁生態系での水産資源の持続的利用を目指した調査研究 ・石西礁湖を含めサンゴ礁生態系での生物多様性に関する調査研究 ・サンゴ幼生放流によるサンゴ群集の修復技術の開発	
小浜島ビーチリゾート (有)イト	弊社、小浜島ビーチリゾートはマリンレジャーにサンゴ保全・再生をテーマとしたエコツアーの商品企画を、積極的に取り入れております。 又、マリンスタッフに対してはダイビング・スノーケリング開催時におけるサンゴ礁への配慮、点検観測、海浜の清掃を徹底いたします。	石西礁湖のサンゴ群の保全再生は最重要課題と認識しあらゆる活動に参加させていただき所存でございます。

石垣市農林水産部 農政経済課	農地からの耕土流出防止対策として次の対策を実施中 1、被覆作目（緑肥）種子の農家への提供 2、土壌流出防止対策としてさとうきび葉ガラ梱包の資材提供 3、グリーンベルト用としてのゲットウ苗の提供 4、耕土流出防止の啓蒙を図るための農家地域説明会の開催	
沖縄県八重山支庁 土木建築課	工事実施の際、赤土等の流出防止対策を実施している。	失われたものどどのように再生させてゆけばよいのか。今あるものをどのように保全してゆくのか。いろんな角度から考えてみたい。
学振科研「ジュゴン沖縄 個体群の保全生物学的研究」グループ	1) 海草藻場の調査とその再生方法に関する調査と検討。 2) ジュゴン再分布を含めた生物多様性の復元を目的とする再生計画の作成。 3) ジュゴン生息環境の復元、収容力の推定および再分布計画の作成。 4) ジュゴンの再分布も想定しての漁業、エコツーリズム、船の運航などとの共生に関する検討。  沖縄本島嘉陽の海草に関する調査、南西諸島一帯の海草分布およびジュゴンに関する現地調査と聞き取り調査、歴史資料などによるかつてのジュゴン分布・個体群の状態・捕獲などに関する調査。台湾・海南島・フィリピンにおける海草とジュゴンに関する調査。	本礁湖に隣接する西表島は、食物連鎖の頂点に位置するイリオモテヤマネコを含め、陸上の生物多様性がよく保全されている。カンムリワシ、オオコオモリ、クイナなどが人を恐れぬのは、保護努力のほか、野生動物と共生する文化の伝統が維持されているからと考えられる。 本州では見られなくなった蝶もよく見られ、昆虫類の多様性が維持されていることも、アイガモ農法など農薬を使わない環境に配慮した農業などによるものと考えられる。イリオモテイノシシの場合、古来、台風被害などによって数が減れば捕獲数を減らすという、自然資源の持続的活用が行われてきた。海についても、表土の流入を抑えるよう配慮されているが、陸の保全が行き届いている西表島においても不十分かもしれない。 海の生物多様性を再生する上で、この海域から絶滅したと考えられるジュゴンの分布復元は、その象徴と考えられる。 石西礁湖から、将来西表島を囲む海域、さらに八重山諸島全海域を再生・保全対象海域とし、かつては数百頭いたかも知れないジュゴンの生息を復元したい。 さらに、陸域とも合わせた多様性の再生・保全を追求したい。
土川 仁	鹿川湾および小浜北におけるリーフチェックに初回より係わってきており、実際の調査だけでなく調査方法の説明会や調査結果の報告等も行ってきている。	20年以上前から石西礁湖でダイビングをしており、いつまでも美しいサンゴ礁であって欲しいと願っています。しかし、以前に比べて特に魚類が減っているように感じられます。昔の、「魚湧く海」が戻ってきて欲しいと願っています。そのためにも、決して無尽蔵に採っても再生するわけではないこと、追えば必ず魚が減っていくことを漁業者、ダイビング事業者等にも理解してもらうことが必要だと思っています。
灘岡 和夫	支援専門委員会委員として参加予定	
沖縄県文化環境部 環境保全課	沖縄県赤土等流出防止条例に基づく事業行為に係る届出・通知の事前審査及び現地指導	
石垣市都市建設部 港湾課	持続可能な利用方法 国立公園と接する石垣港新港地区において、人工海浜等の整備を計画している。サンゴ礁共生型の整備により観光資源として活用したい。 普及啓発方法 離島桟橋において、さんごを移植する海中展望施設の設置を計画している。港湾利用者、観光客等に環境保全へのPR効果も図った活用をしたい。	石垣港港湾区域と隣接し港湾の開発・利用と密接な関わりのある海域である。さんごの自然再生に関心を払い、協働の対応を図っていきたい。
沖縄県土木建築部 下水道課	下水道の整備を図ることにより、公共用水域の水質の保全に資すること。	下水道関係部局の立場で協議会に参加し、自然再生の取組に協力したい。

元村 伝	音楽イベント等を企画しまして、環境保護に関するチャリティーイベントにして、収益を寄付したり、その中で、自分も含めて島の若者の中での意識を高めて行ければと、2年前から不定期ですが、啓蒙啓発の一貫になればという願いで活動はしてるつもりです。 また、企業活動を通して、石垣島の下水道の環境整備に対する、遅れを痛感してまして、このことを、みんなで考えて、島のみならず、早く行動に移すことができればと考えています。	珊瑚礁のことはわからないのですが、観光を生業にしている身としては、この島が文明的に発展すればするほど、私たちの生きるステージが、逆に無くなっていく・・・。 島の間人は、この石垣島の自然は、自分達のものという意識ではなく、世界中の人々から、100年後200年後それ以上の未来から預かっているという認識で、守っていかなければいけないのではないかと考えています。
進藤 朗美	陶芸家として10年やってきて、海の為に何か出来ないかと考えていました。沖縄本島でテストされた素焼きのピンでのサンゴ再生の定植に興味があり、これから先、この石垣でも水質浄化、サンゴ群集の修復、再生活動が出来ればと思っております。 また内、外問わずサンゴ群集に興味があるが、きっかけをつかめない人は多いと思いますので、一人でも多くの方が修復、保全に関わりを持てる様なコミュニティーを作っていきたいと思っています。	一地区だけではなく、広域に渡り自然再生を考えていける事が大変良い事だと思います。現状を見るだけでなく、過去をふり振える事だけではなく、これから先の再生という先への考え方に賛同いたしました。 自然再生に恵まれているこの石西礁湖をよりよい環境へとしていきたいです。
沖縄総合事務局 農林水産部 土地改良課	農地からの赤土等流出を防止するための主に土木的対策について、県、市町村と協力し推進している。	
石垣島周辺海域環境 保全対策協議会	赤土流出防止対策の取り組みを通して、海を守り、次の世代に正しく引き継ぐための啓発を行っている。	赤土の流出を無くし、サンゴの自然再生にとって良い環境を作りたい。
沖縄総合事務局 農林水産部 農産園芸課	環境保全型農業の振興・調整	土づくりの推進や、さとうきびの株出の促進など農業の分別で、赤土流出を防ぐ貢献ができればよいと考えている。
八重山漁業協同組合	・オニヒトデ駆除・調査・サンゴ移植・藻場の造成	・魚が増える環境づくりをしていただきたい。
八重山観光フェリー (株)	定期船の運航	八重山の財産
八重山漁業協同組合 青年部	・オニヒトデ対策事業 - モニタリング調査、オニヒトデ駆除 ・石西礁湖のサンゴ調査 ・サンゴ採取・移植事業 ・サンゴ養殖し、植付まで、今計画中	むかしのたくさんのサンゴ礁、魚のあふれる美ら海にもどしたい!
八重山漁業協同組合 資源管理委員会	魚のサイズ規制	
石垣島沿岸レジャー 安全協議会	海をフィールドとした観光についてロードダメージあるいは現状からの回復を考えて活動している。 小学校などのスノーケリングやカヌーを使った授業、また、学校の先生方への指導者講習を実施。	
沖縄県八重山支庁 農林水産振興課 水産係	八重山漁協資源管理計画策定支援	
(有)安栄観光	船舶の運航とサンゴ保全管理	
平田観光(株)	特に今まで何らかの活動をしてきた訳ではないが、自然保護の観点からは漠然と将来に危機感を抱いておりました。しかしながら、正面から向き合ったことはなかったように思います。 今回の自然再生協議会が、八重山に住む私たちみんなの自然に対す	知識という点につきましては、殆ど何も知らない状況ですので、まずは私たち自身が現状をしっかりと把握し、学ぶことが必要かと思われまます。それを踏まえた上で民間会社として、どのような取り組み、協力が出来るのかを検討していけばいいのではないのでしょうか。

	<p>る認識を変えていくきっかけとなる事を期待しております。          今後は観光業の立場から真剣に考えて行きたいと思います。</p>	<p>最もスピーディーに取り組みそうなのは、普及啓発ではないかと思          います。方法等については未定ですが、話し合いの中で、最善のやり方を見          出して行けば良いと思います。</p>
竹富町 農林水産課	<p>持続可能な利用について          石西礁湖は魚湧く豊かな海として、町内の島々の住民生活に昔か          ら重要な役割を果たしてきました。しかし、昭和 55 年のオニヒトデ          の大量発生以来、サンゴの白化現象、赤土流出等による漁場汚染等          でサンゴ礁が危機的な状況にある。漁場の持続利用を図る上でもオニ          ヒトデ駆除、赤土流出等の対策が不可欠であり、保全監視体制の強化に          取り組んでいく必要がある。</p>	<p>サンゴ礁の生態系を保護することにより、豊かな海、貴重な海洋資源          は、地域産業の振興等に多大な影響をおよぼすだけでなく、様々な恩恵          を人々に与えてくれるサンゴ礁回復・再生を願うものである。</p>
石垣市 農林水産部 畜産課	<p>石垣市では、石西礁湖内において畜産農家の糞尿によるサンゴの影響          について</p>	<p>石西礁湖の存在が今後の資源管理に果たす役割は重要と考えられる。</p>